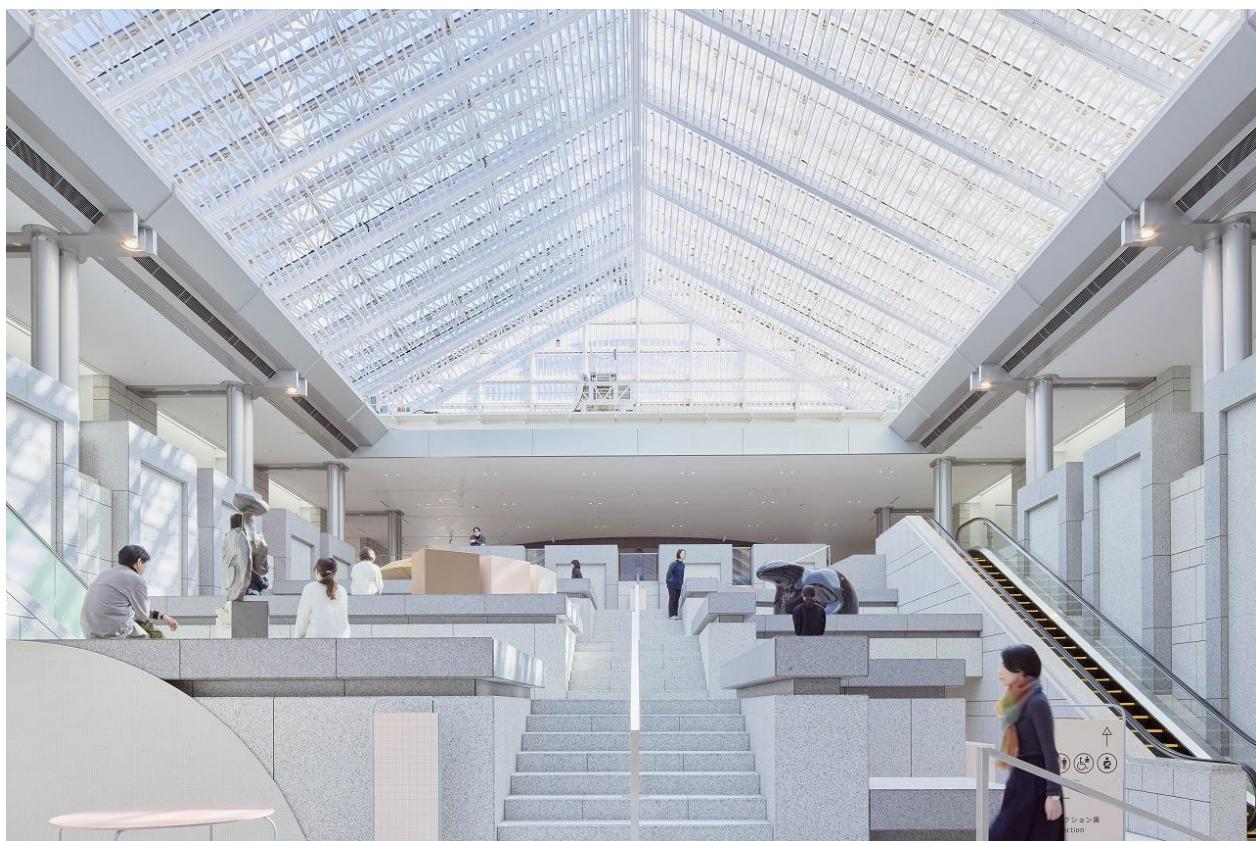


2025年2月7日



だれもが思い思いに過ごせる美術館へ

2月8日（土）横浜美術館 全館オープン
横浜美術館リニューアルオープン記念展
「おかえり、ヨコハマ」開幕



撮影：新津保建秀

横浜美術館は、2025年2月8日（土）より全館オープンし、だれもが思い思いに過ごせる美術館へと生まれ変わります。

- ・だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」を拡充しました
- ・全館でさまざまな展覧会を開催します
横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」とコレクション展 ほか
- ・横浜美術館の3年間の大改修を記録した映像作品をオンラインで公開します
SIDE CORE ×横浜美術館「KAIROS／カイロス」

横浜美術館



だれもが思い思いに過ごせる美術館へ

だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」を拡充

横浜美術館のエントランスホールである「グランドギャラリー」。ここを中心とした空間を「じゅうエリア」と名付け、無料スペースの楽しみ方を大幅に拡充しました。

飲み物を飲んでおしゃべりを楽しめる「まるまるラウンジ」、小さなお子さんが家族と一緒に安心して利用できる「くつぬぎスポット」、大階段の彫刻作品のまわりで座って本を読むこともできるスペースなどを新設し、美術図書室もリニューアルしました。

展覧会を見ない方でも、ぶらりと訪れてのんびりと過ごすことができる憩いの場がひろがり、開放的な美術館に生まれ変わりました。



「くつぬぎスポット」
撮影：新津保建秀

全館でさまざまな展覧会を開催

横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」 横浜美術館 コレクション展

蔵屋美香（横浜美術館 館長）が企画する「おかえり、ヨコハマ」展では、アートを通して見えてくる新しい横浜の姿を描き出します。横浜の縄文時代から現代までを振り返り、開港前の人びと、女性、子どもなど、これまであまり注目されてこなかった人びとにスポットをあてます。横浜で発掘された土器や、本展のために制作された作品とともに、セザンヌ、ピカソ、マグリット、奈良美智など人気の当館コレクションも勢ぞろいします。大人も子どもも楽しめる「子どもの目でみるコーナー」も必見です。

同時に、横浜美術館が所蔵する作品をさまざまなテーマで紹介するコレクション展を開催し、無料のスペース「じゅうエリア」でも彫刻など多数の作品を展示します。

会期中は、家族と一緒に美術館を探検する仕掛けを用意しています。また、トークやツアーなど関連イベントも多数実施します。



左図版：《人面付土器》（鶴見区上台遺跡）【部分】 弥生時代後期 H32cm 横浜市歴史博物館蔵（神奈川県指定重要文化財）
右図版：ルネ・マグリット 《王様の美術館》【部分】 1966年 油彩、カンヴァス 130.0 x 89.0 cm 横浜美術館蔵

横浜美術館の3年間の大改修を記録した映像作品をオンラインで公開 SIDE CORE ×横浜美術館「KAIROS／カイロス」

横浜美術館の改修前後の内部空間や、美術館の引っ越しの様子など、工事囲いに閉ざされ、眠る美術館の舞台裏を、3年にわたり360度カメラで記録したアーティスト・コレクティブのSIDE COREによる映像作品です。

改修時の美術館内で展開された菊地良太、コムアイ、TOKYO ZOMBIE、森山泰地らアーティストやミュージシャンによるパフォーマンスも記録されています。

リニューアルオープンを記念し、オンラインで公開します。



《KAIROS／カイロス》より、2021-2025年、ビデオ



〈新しい「施設」と「企画」の紹介〉

だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」

- ・まるまるラウンジ
- ・くつぬぎスポット
- ・彫刻の近くで座ってくつろげる大階段
- ・無料のギャラリー
- ・美術図書室
- ・カフェ、ミュージアムショップ

さまざまなテーマで開催する展覧会

横浜美術館リニューアルオープン記念展

「おかえり、ヨコハマ」 2025年2月8日（土）－6月2日（月）

コレクション展 2025年2月8日（土）－6月2日（月）

「新収蔵作品特別展示 ―― 浅井裕介《八百万の森へ》」

横浜の各地から集められた土を絵の具として用い、土とは思えない豊かな色彩で鹿やへびなどの動物、植物、人が描かれた大作は「多様な人／もの同士の繋がり」を象徴する作品。

「新たにむかえた作品たち ―― 生活・手仕事・身体」

身の回りの出来事や身体をテーマにした女性アーティスト、手仕事の創作や性差の問題に取り組んだ男性アーティストら、1980年代と2010年代を中心に現代アート作品を紹介する。

「ひっくり返す・ひっくり返る」（無料）

美術館や現代アート初心者におすすめ。あたり前の風景や物、制度などを“ひっくり返した”作品たちを紹介する。そうということか！と新たな気づきが満載の展示。

「ガラスとひかり」（無料）

美術館初心者におすすめ。思わず「おお！」と声をあげてしまうほど、陽の光が差し込むガラス張りの展示室の中で、表情をかえるガラスの作品が楽しめる。

展示室以外の「じゅうエリア」で鑑賞できる作品（無料）

横浜美術館リニューアルオープン記念 オンライン作品（無料）

SIDE CORE×横浜美術館「KAيروس／カイロス」 2025年2月8日（土）－2026年3月31日（火）

イベント

ギャラリートークや講演会

横浜美術館リニューアルオープン記念 トーク&ワークショップ「新宮晋の世界」

子どもや家族が楽しめる展示や仕掛け

子どもや家族と一緒に楽しめる展示やツール、イベントなどを用意しています。

「子どもの目でみるコーナー」

「こどもミッションシート」

「ビビッと！びじゅつ探検カード」など

限定販売「横浜美術館パスポート2025」

これからの展覧会 [横浜美術館リニューアルオープン記念展]

2025年6月28日（土）－11月3日（月・祝）「佐藤雅彦展 新しい×（作り方＋分かり方）」

2025年12月6日（土）－2026年3月22日（日）「日韓現代美術展（仮称）」



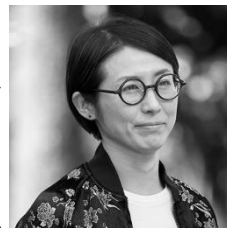
〈リニューアルの概要〉

「じゅうエリア」のリニューアルに関わったクリエイターたち

空間構築、サイン計画

乾 久美子 (いぬいくみこ) / 建築家・横浜国立大学大学院Y-GSA教授

設計者・丹下健三が使った御影石に埋め込まれているさまざまな色を抽出し、オリジナルの什器をつくりました。横浜美術館の特徴である巨大な天窓が修復されたことをいかし、自然光の下で石の色と什器がお互いに引き立てあい、和らいだ雰囲気が漂う場所を目指しました。入ってすぐ正面の「まるまるラウンジ」にはいろいろなサイズのテーブルと椅子を揃え、ひとりでも、みんなでいても居場所と感じられる場所になればと考えました。また、ユニット化した什器はシーンにあわせて組み合わせが変更されるようになっていきます。什器の制作にあたっては、さまざまな障がいのある方たちと共にインクルーシブワークショップを実施しました。原寸大のモックアップを試しながら知見を得るといった貴重な機会がなければ生まれなかった家具もありますので、ぜひお楽しみください。

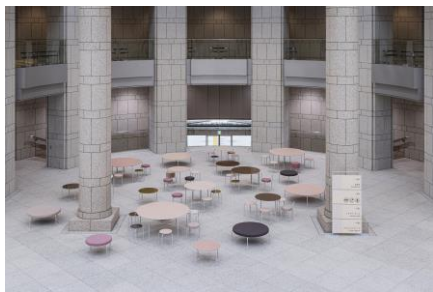


空間構築、サイン計画、リニューアルロゴ

菊地 敦己 (きくち あつぎ) / アートディレクター・グラフィックデザイナー

サインやポスターなどのグラフィックデザインを手がけています。また乾久美子建築設計事務所と協働して空間のデザインにも取り組みました。新しい美術館を立ち上げるのとは違い、既存の美術館建築やこれまでの活動を捉えた上で、どのようにアップデートしていくかが課題でした。グランドギャラリーの階段は片側が四角、もう一方は丸をモチーフにした空間が特徴的です。新しいマークは、既存のマークの四角を同じ面積の丸に置き換えたもので、隙間がある風通しの良い組み合わせになっています。もともと存在する形が変化して、ひらいていく。このことは、横浜美術館がリニューアルで目指していることの象徴でもあります。また、「YOKOHAMA MUSEUM OF ART」などのタイポグラフィにも、四角と丸を組み込み、違う形やイメージが同居しながら調和することを目指しました。

展示会を観に行くのはもちろんですが、グランドギャラリーで待ち合わせしたり、お茶を飲んだり、ぼーっとしたり、横浜美術館が公園のように身近な空間として、ひらかれていくことを期待しています。



©morinakayasuki

横浜美術館 開館情報と観覧料

【開館時間】 10時～18時 (入館は17時30分まで)

【休館日】 木曜日 (ただし3月20日 [木・祝] は開館)、3月21日 (金)

【観覧料】 **横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」**

コレクション展も入場可 (「おかえり、ヨコハマ」展の観覧当日に限り)

一般：1,800 (1,700) 円 大学生：1,500 (1,400) 円 高校・中学生：900 (800) 円
小学生以下：無料

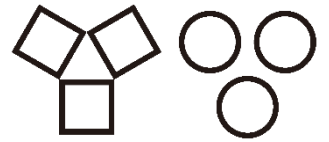
「コレクション展」のみの鑑賞

一般：500 (400) 円 大学生：300 (240) 円 高校・中学生：100 (80) 円
小学生以下：無料 ※毎週土曜日は、高校・中学生は無料

※ () 内は有料20名以上の団体料金 (要事前予約、美術館券売所でのみ販売)
※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方 (1名) は無料

【お問合せ先】 横浜美術館 広報担当 (高橋、熊谷)

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1 TEL : 045-221-0319 FAX : 045-221-0317 Email : pr-yma@yaf.or.jp



だれもが思い思いに過ごせる美術館へ

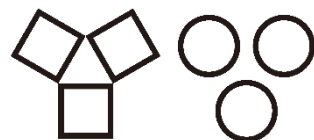
2月8日（土）横浜美術館 全館オープン

横浜美術館リニューアルオープン記念展
「おかえり、ヨコハマ」開幕

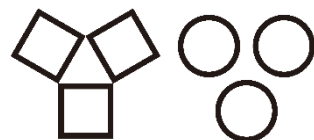
記者資料

2025年2月7日

目次



館長メッセージ 新しくなった横浜美術館へようこそ 横浜美術館 館長 蔵屋美香	2ページ
だれもが無料でくつろげる「じゆうエリア」 まるまるラウンジ くつぬぎスポット 彫刻の近くで座ってくつろげる大階段 無料のギャラリー（ギャラリー8、ギャラリー9） 美術図書室 カフェ「馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室」 ミュージアムショップ「MYNATE」	3ページ
展覧会 [有料] 横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」	5ページ
コレクション展 「新収蔵作品特別展示—浅井裕介《八百万の森へ》」 「新たにむかえた作品たち—生活・手仕事・身体」	11ページ
開館情報と観覧料	13ページ
無料で鑑賞できる展覧会、作品 コレクション展 「ひっくり返す・ひっくり返る」 「ガラスとひかり」 展示室以外の「じゆうエリア」で鑑賞できる作品	14ページ
横浜美術館リニューアルオープン記念 オンライン作品 SIDE CORE×横浜美術館「KAIROS/カイロス」	16ページ
プログラム 横浜美術館リニューアルオープン記念 トーク&ワークショップ「新宮晋の世界」 展覧会関連イベント（ギャラリートークや講演会） デジタルアプリ Bloomberg Connects（ブルームバーグ・コネクト）	17ページ
子どもや家族が楽しめるしかけ こどもミッションシート ビビッと！びじゅつ探検カード 子どもの目でみるコーナー	18ページ
限定販売「横浜美術館パスポート2025」	19ページ
これからの展覧会 [横浜美術館リニューアルオープン記念展シリーズ] 2025年6月28日（土）— 11月3日（月・祝）「佐藤雅彦展 新しい×（作り方+ 分かり方）」 2025年12月6日（土）— 2026年3月22日（日）「日韓現代美術展（仮称）」	20ページ



新しくなった横浜美術館へようこそ

横浜美術館が開館したのは、1989年のことです。みなとみらい21地区につくられた最初の施設のひとつでした。

以来36年間、展覧会を「みる」、市民や子どものためのアトリエで「つくる」、美術図書室で「まなぶ」の3つの豊かな経験を、来館者のみなさまに提供してきました。

2021年から3年以上にわたり、開館以来初となる大規模改修工事のため休館してきましたが、このたびいよいよ全館オープンを迎えました。

戦後日本を代表する建築家、丹下健三が設計した建物は、わたしたちの誇りです。これを大切に受け継ぎながら、いっそうみなさまに親しんでいただけるよう、リニューアルオープンにあわせ、いくつもの工夫をこらしました。

そのひとつが、美術館最大の見せ場であるグランドギャラリーに新しく置かれた家具やサイン類です。建築家、乾久美子とグラフィック・デザイナー、菊地敦己の手によるものです。

たくさんの種類のピンク色は、建物の石材の粒の色から採られました。いろいろな人が思い思いに過ごせる空間となるように、との願いを込めています。

美術館は、もちろん美術と出会うための場所です。しかし、「美術と出会うこと」自体が目標というわけではありません。

作品を見る。自分でもつくってみる。グランドギャラリーで一息つく。もっと知りたいと美術図書室に足を運ぶ。カフェでのどをうるおし、ショップで思い出の品を選ぶ。これら一連の経験を通して、来館者お一人おひとりが、よりよい生【せい】を生きるための力をチャージする。こここそが、美術館が見据えるゴールなのです。

美術館に来てよかった。よい時間だった。

来館者のみなさまにそう言っていただけるよう、わたしたちはこれからも力を尽くします。

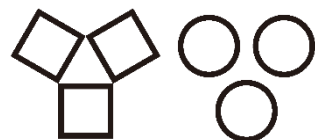


撮影：加藤甫

2025年2月7日
横浜美術館 館長
蔵屋美香

*『みなとが、ひらく』（ピンク色のパンフレット）に、リニューアルによって新たに作成した「ミュージアムメッセージ」「ステートメント」「5つの願い」「リニューアルに関わったクリエイターたち」などを紹介しています。

新しい施設



だれもが無料でくつろげる「じゅうエリア」

グランドギャラリー



じゅうエリア（イメージ図）

画像：乾久美子建築設計事務所

まるまるラウンジ

作品や建築を見ながら、併設のカフェでテイクアウトした飲み物やおしゃべりを楽しめる場所です。



撮影：新津保建秀

くつぬぎスポット

小さなお子さんが家族と一緒にリラックスして安心して楽しめるエリアを新設しました。



撮影：新津保建秀

彫刻の近くで座ってくつろげる大階段

左右対称にひろがる階段の踊り場には、横浜美術館の建物のあちこちにみられる「まる」と「シカク」を切り口に彫刻作品を展示しています。作品を囲みながらおしゃべりをしたり、考えをめぐらせたりできる場所です。

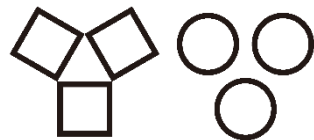
ほかにも、展示室前のホワイエまで無料エリアを拡張しました。ここは、グランドギャラリー全体を見渡しながらか、子どもから大人まで、だれもが自由に過ごせる場所です。ワークショップなどもここで開催する予定です。



撮影：新津保建秀

横浜美術館

新しい施設



だれもが無料でくつろげる「じゆうエリア」

「美術の広場」に面したエリア

無料のギャラリー

(ギャラリー8、ギャラリー9)

無料でご覧いただける新しいギャラリーを2か所新設しました。ギャラリー9は、外から室内を覗き込めるガラス張りの展示室です。展示内容は、14ページをご確認ください。



「ガラスとひかり」展示風景 (ギャラリー9)

美術図書室

美術の広場から直接アクセスできるフロアに引っ越し、オリジナルデザインのテーブルとイスを設えたスペースに生まれ変わりました。アートにまつわる絵本から専門書まで、どなたでも無料でご利用いただけます。



撮影：新津保建秀

カフェ

「馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室」

馬車道にある本店と同じケーキのほか、デザート、軽食、ドリンクとともにゆったりと時間を過ごすセルフサービスのカフェです。横浜土産としても人気の「ビスカウト」の販売もあります。一部テイクアウトも可能ですので、屋外のテーブルで美術の広場を眺めながらコーヒーを味わうのもおすすめです。コラボレーションメニュー、期間限定パフェやソフトクリームもあります。

(右)
「おかえりYOKOHAMAパフェ」
990円 (税込み)



ミュージアムショップ「MYNATE」

「MY」=「私(たち)の」と「NATE」=「生まれる(ラテン語)」を組み合わせせた造語で、「ミナト」と読みます。コンセプトは「地域の文化と本のあるお店」です。

横浜美術館のオリジナルグッズや、横浜市内で活躍する作家や企業、クリエイターの商品、地域色に富んださまざまな商品をセレクトし、横浜の文化を楽しんでいただけるショップです。展覧会に合わせた商品展開も見逃せません。

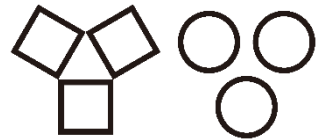
(右)
トートバッグ
Mサイズ (2色) 2,200円
ワイドサイズ 2,530円
(いずれも税込み)



撮影：新津保建秀写真 (左・右とも)

横浜美術館

展覧会 [有料]



横浜美術館リニューアルオープン記念展 「おかえり、ヨコハマ」

企画趣旨

本展では新しい船出となるこの機会に、当館コレクションの名作の数々を新たな視点で紹介します。加えて、横浜市歴史博物館、神奈川県立歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜市民ギャラリーなど、主に市内の施設が所蔵する、コレクションへのまなざしを豊かにしてくれる作品や資料も展示します。また、本展のためにアーティストに委嘱した新作をグランドギャラリーで披露します。

作品を読み解くための鍵は「横浜」、そしてリニューアル後の当館の活動理念の柱である「多様性」です。今回は「多様性」という観点のもと、横浜にまつわる作品の中でこれまであまり注目されることのなかった存在—開港前の横浜に暮らした人びと、女性、子ども、さまざまなルーツを持つ人びとなど—にあらためて光をあてます。これにより、おなじみの作品や横浜の歴史にたくさんの新しい発見をもたらします。こうしてローカルの歴史を深掘りすると、世界の歴史もきっと違って見えてきます。

会場内には、子どもも一緒に楽しめる「子どもの目でみるコーナー」を設けます。また、当館の活動の柱のひとつである教育普及事業も開催します。

タイトルには、「久しぶりに横浜美術館が帰ってきた」という意味と、「異なる時代にいろいろな地域からやってきて横浜に暮らした（あるいは現在暮らす）さまざまな人たちを、あらためて『おかえり』と言って迎え入れたい」という希望が込められています。

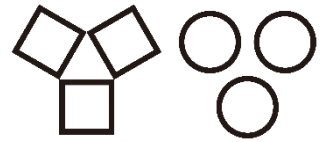
みどころ

1. 「横浜」の歴史を縄文時代から現代までを取り上げ、作品を通して深掘りする
2. 開港前に暮らした人びと、女性、子ども、さまざまなルーツを持つ人びとに注目する
3. セザンヌ、ピカソ、マグリットや奈良美智などコレクションの名作が勢ぞろいする
4. 子どもも大人も一緒に楽しめる展示コーナーやしかけがたくさん

基本情報

企画 蔵屋美香（横浜美術館 館長）
主催 横浜美術館、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
特別協力 横浜市歴史博物館、神奈川県立歴史博物館
協力 みなとみらい線、国立映画アーカイブ、株式会社イルカ、株式会社ルーヴィス

展覧会 [有料]



横浜美術館リニューアルオープン記念展 「おかえり、ヨコハマ」

展覧会構成

第1章 みなとが、ひらく前

「横浜の歴史は開港に始まる。それ以前は小さな漁村に過ぎなかった」。そんな横浜についての決まり文句を再考します。横浜市歴史博物館と神奈川県立歴史博物館の協力のもと、縄文期から広義の横浜市域に暮らしてきた人びとがつかったモノ、遺したモノを、「女性」「子ども」などのテーマに沿ってご紹介します。



《人面付土器》(鶴見区上台遺跡)
弥生時代後期 H32cm
横浜市歴史博物館蔵
(神奈川県指定重要文化財)

第2章 みなとを、ひらけ

欧米諸国の要求に応じ、1859(安政6)年、横浜は開港しました。西洋風の街並みや各国人の姿、鉄道などの風物は、錦絵となって流通し、市外の人びとの好奇心を満たしました。

横浜はこうして開港当初から、国内外から向けられる視線を意識しつつ、どのように自分を「見せる」かを考える、「見られる／見せる」都市として出発したのです。

またこの章では、開港直後に始まる横浜の遊廓の歴史をたどります。

外から入ってくる人びとを受け入れるため、まず遊廓や赤線を設ける。この発想は以後も横浜で繰り返されることになります。

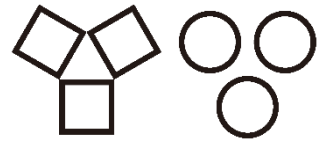


ペーター・ベルンハルト・ヴィルヘルム・ハイネ(伝)
《ペリリ提督横浜上陸の図》1854年以降
油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm
横浜美術館蔵(原範行氏・原會津子氏寄贈)



昇齋一景《夕留より蒸気車通行の図》
1872年 多色木版(三枚続) 36.8×73.5cm
横浜美術館蔵(齋藤龍氏寄贈)

横浜美術館



横浜美術館リニューアルオープン記念展 「おかえり、ヨコハマ」

第3章 ひらけた、みなと

横浜では、外国人向けのみやげものとして、あるいは輸出品として、多くの絵画や工芸品がつくられました。この章では、こうした文化と文化の接触面 [コンタクト・ゾーン] に生まれた品々をご紹介します。洋画家、五姓田義松は、みやげ品として絵画を制作する父、五姓田芳柳のもとに生まれました。また日本の学校教育では、女性が美術を学ぶ機会は長く限られていました。その中で、義松の妹、幽香は、学校ではなく家業として絵画を学び、大成しました。



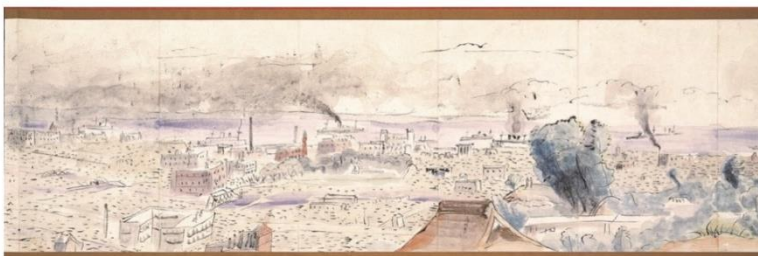
宮川香山 (初代) 《高浮彫牡丹二眠猫覚醒大香炉》
明治前期 陶磁器 H29.7cm
田邊哲人コレクション (横浜美術館に寄託)



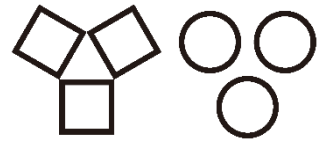
五姓田芳柳 (伝) 《外国人女性和装像》
制作年不詳 絹本着色、軸 99.0 x 38.8 cm
横浜美術館蔵

第4章 こわれた、みなと

日本画家、今村紫紅の生家は輸出向けの提灯を商っていました。同じく日本画家、牛田雞村 (けいそん) の生家は輸出陶磁器の梱包業でした。急速に増加した横浜の人口の多くは、このように、輸出入関連の仕事を求めて日本各地から集まった人びとで占められていました。この章では、こうした家庭に生まれた横浜二世のふたりの作品をご紹介します。ふたりを支援したのは、生糸貿易で得た莫大な資産を持つコレクター、原三溪 (さんけい) でした。順調に発展を続ける横浜を、1923 (大正 12) 年、関東大震災が襲います。その時横浜にいたアーティストたちは、何を見、何を描き残したのでしょうか。



中島清之 《関東大震災画卷》(部分) 1923 年 紙本淡彩、卷子 27.8 x 770.5 cm
横浜美術館蔵 (中島清之氏寄贈)



横浜美術館リニューアルオープン記念展 「おかえり、ヨコハマ」

第5章 また、こわれたみなと

世界恐慌による打撃を乗り越えて、横浜は徐々に震災からの復興を果たします。瓦礫を埋め立てて1930（昭和5）年に山下公園が完成し、また焼け落ちた幾多の橋梁も架け替えられました。

震災復興から戦時下まで、繁栄を謳歌しながら、少しずつ時代の波にのまれてゆく横浜の姿を、アーティストたちが描いた川や橋の風景に探ります。

洋画家、松本峻介を代表するシリーズ、横浜駅近くの月見橋を描く一連の〈Y市の橋〉は、横浜初のまとまったご紹介です。



片岡球子《緑蔭》
1939年 紙本着色 194.0×286.0cm
横浜美術館蔵（片岡球子氏寄贈）



松本峻介《Y市の橋》
1943年 油彩、カンヴァス 61.0×73.0cm
東京国立近代美術館蔵

第6章 あぶない、みなと

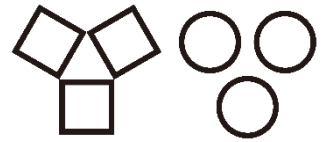
1945（昭和20）年5月の横浜大空襲で被害を被った横浜は、戦後、中心部の占領軍接收によって長く復興をばまれました。ここでは占領下から高度経済成長期までの横浜のようすをご紹介します。

1859（安政6）年の開港時にいち早く港崎（みよざき）遊廓が開かれた横浜では、敗戦の際にもさっそく米軍兵のための慰安施設が準備されました。その役割は、真金町（永真）遊郭、本牧のチャブ屋街、街娼などにも引き継がれ、1958（昭和33）年の売春防止法完全施行まで続きました。

こうして戦後の混沌を引きずった横浜は、昭和期、多くの日本映画に登場しました。「港」「外国人組織」「麻薬取引」といったお決まりの要素は、今日も横浜を舞台とする映画や小説に見られます。



常盤とよ子《路上》1954年（1988年のプリント）
ゼラチン・シルバー・プリント 49.8×35.8cm
横浜美術館蔵



横浜美術館リニューアルオープン記念展 「おかえり、ヨコハマ」

第7章 美術館が、ひらく

1983 (昭和 58) 年、みなとみらい 21 地区の開発が始まりました。1989 (平成元) 年には「横浜博覧会 (YES'89)」にあわせ、丹下健三設計の横浜美術館が開館します。この章ではまず、横浜美術館の設立過程をご紹介します。

あわせて、開館前後に收藏され、「横浜市民」となって 30 年以上親しまれてきたコレクションの名品を新しい視点から読み直します。特に、ポール・セザンヌ作《縞模様の服を着たセザンヌ夫人の肖像》(1883-85 年) のオルタンス・フィケ＝セザンヌ、ピカソ作《ひじかけ椅子で眠る女》(1927 年) のマリー＝テレーズ・ワルターなど、描かれたモデルの声に耳をすませます。



ポール・セザンヌ
《縞模様の服を着たセザンヌ夫人》
1883-85 年 油彩、カンヴァス
56.8 x 47.0 cm 横浜美術館蔵

第8章 いよいよ、みなとが、ひらく

最終章として、横浜美術館の新しい船出を祝し、2010 年代以降の作品と、アーティストの檜皮一彦に制作を委嘱した新作をご紹介します。また、この章では子どものために作品を選び、見やすいよう工夫して展示する「子どもの目でみるコーナー」を設けます。

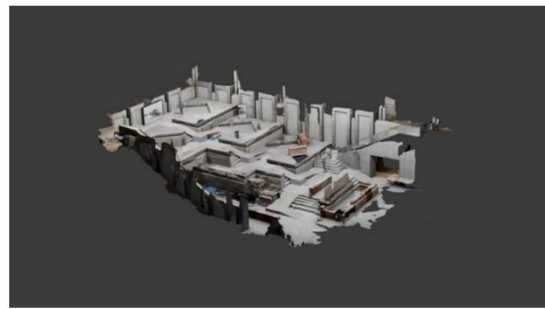
多様性を切り口に、横浜に生きるさまざまな生【せい】を祝福し、子どもたちに未来への希望を託します。



ルネ・マグリット
《王様の美術館》
1966 年
油彩、カンヴァス
130.0 x 89.0 cm
横浜美術館蔵

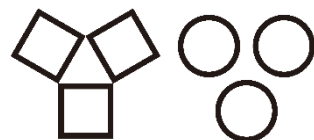


奈良美智《春少女》2012 年
アクリル絵具、カンヴァス
227.0 x 182.0 cm
横浜美術館蔵
©YoshitomoNara



檜皮一彦《walkingpractice / CODE: OKAERI [SPEC_YOKOHAMA]》
2024 年 サイズ可変
木材、LED サイネージ、LCD、メディアプレイヤー、LED 照明、他
作家蔵

展覧会 [有料]



横浜美術館リニューアルオープン記念展 「おかえり、ヨコハマ」

子どもの目でみるコーナー

第8章「いよいよ、みなとが、ひらく」の展示室には、大人も子どももゆっくりと作品に向き合えるコーナーをつくりました。

ここでは作品を子どもの目線に合わせて低い位置で展示し、子ども用の机と椅子も用意しました。大人に人気のルネ・マグリット、色鮮やかな絵画や見た目にも面白い作品が並んでおり、横には作品をみるヒントがわかりやすく書かれています。それを手掛かりに、大人も子どもも一緒に会話をしながら鑑賞できます。

ほかにも「こどもミッションシート」「ビビッと！びじゅつ探検カード」など、ゲーム感覚で作品を楽しむツールもあります。詳しくは18ページをご覧ください。

関連イベント 下記以外の新しいプログラムはWEBサイトで順次公開します

記念講演

「おかえり、ヨコハマ」展を10倍楽しもう

講師 蔵屋美香（横浜美術館 館長、本展企画者）
日時 2025年3月1日④ 14:00-15:30（手話通訳付き）
会場 横浜美術館 レクチャーホール（定員220名／先着順）
参加費 無料（申込不要）



昇高一景《汐留より蒸気車通の図》
1872年 横浜美術館蔵（齋藤龍氏寄贈）

ギャラリートーク

日時 2025年3月15日④、4月5日④、4月26日④
各日 14:00-14:45
会場 「おかえり、ヨコハマ」展 展示室
参加費 無料（申込不要、当日有効の観覧券が必要）

ファミリープログラム

ビビッと！びじゅつ探検ツアー

日時 2025年3月23日⑥ ①10:30-12:00 ②14:00-15:30
会場 「おかえり、ヨコハマ」展 展示室、他
参加費 一組 2,000円（要事前申込）

特別対談

「堀越英嗣×乾久美子 横浜美術館の建築を読み解く」

日時 2025年5月17日④ 14:00-15:30
会場 横浜美術館 レクチャーホール（定員220名／先着順）
参加費 無料（申込不要）

アーティスト・インタビュー

「映画と空間：アーティスト／映画監督、 クリス・チョン・チャン・ファイに聞く」

出演 クリス・チョン・チャン・ファイ
（本展出品アーティスト／映画監督）
聞き手 蔵屋美香（横浜美術館 館長、本展企画者）
日時 2025年2月8日④ 14:00-15:30
会場 「おかえり、ヨコハマ」展 展示室
※和英逐次通訳つき
参加費 無料（申込不要、当日有効の観覧券が必要）



クリス・チョン・チャン・ファイ

アクセスプログラム

ことばで一緒にみる鑑賞会

日時 2025年5月11日⑥ ①10:30-12:30
②14:30-16:30（手話通訳付き）
会場 「おかえり、ヨコハマ」展 展示室、他
参加費 無料（要事前申込、当日有効の観覧券が必要）

アクセスプログラム

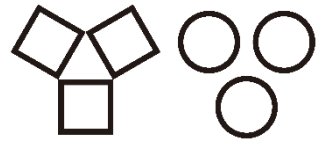
オンライン鑑賞会

日時 2025年5月18日⑥ 14:00-16:00
会場 オンライン ※Zoom（ウェブ会議ツール）を使用します。
参加費 無料（要事前申込）

公式カタログ

販売予定日 2月16日（日）（事前予約受付は2月15日まで）
販売場所 横浜美術館ミュージアムショップ MYNATE店頭
MYNATEオンラインショップ <https://mynate.base.shop/>
価格 3,300円（税込） 判型 A5サイズ／288ページ／日英バイリンガル

横浜美術館



コレクション展 新収蔵作品特別展示——浅井裕介 《八百万の森へ》 新たにむかえた作品たち——生活・手仕事・身体

企画趣旨

新収蔵作品特別展示 —— 浅井裕介 《八百万の森へ》

本作は、横浜信用金庫から横浜市文化基金への寄附金により、2023年に制作・収蔵されたものです。

その制作は、横浜の各地から集められた土をボランティアの手でふるいにかけて「絵の具」にする作業からはじまりました。その後、横浜信用金庫の鶴ヶ峰支店、本店営業部、市場支店、そしてBankART Stationで、多くの市民の方に見守られ、またさまざまな人々の協力を得て描き上げられました。文字どおり、「横浜生まれ」の作品です。

土のざらざらした風合いを残しつつ、土とは思えない豊かな色彩で覆われた画面。浅井のトレードマークともいえる鹿やヘビ、そのほか多様な動物、植物、人が、そこに生息しています。完成後、浅井はこれを《八百万（やおよろず）の森へ》と名づけました。大小9枚のパネルを組み替えることで、展示のたびに異なる「森」が姿を見せます。

描かれたイメージ、その構成の仕方、完成までの道のり、いずれにおいても「多様な人／もの同士のつながり」を象徴するこの作品。浅井ならではのウィットと、生きとし生けるものへの愛情にあふれた絵画をお楽しみください。



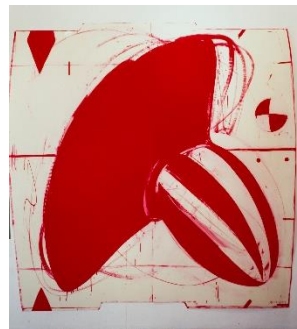
浅井裕介《八百萬の森へ》2023年 土、アクリル樹脂、木炭、鉛筆、弁柄、パネル
325.0×390.0 cm、横浜信用金庫創立100周年記念寄附による購入

新たにむかえた作品たち——生活・手仕事・身体

本展では、身の回りの出来事や身体をテーマにした女性アーティスト、手仕事の創作や性差の問題に取り組んだ男性アーティストら、1980年代と2010年代を中心に現代アート作品を紹介します。

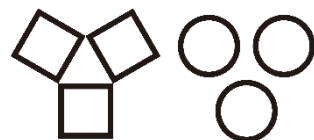
1980年代、日本では好景気を背景に現代アートの多様化が進みました。この時代に登場したのが、身の回りの出来事や身体をテーマに制作をする女性アーティスト、手仕事の創作や性差の問題に取り組む男性アーティストです。彼らが提起したジェンダーの問題や日常から世界を見つめる視点は、2010年代以降の現代アートにも引き継がれ、今に至っています。

横浜美術館は、19世紀から現在にいたる美術作品を主に収集しています。現代アートの収蔵にあたっては、すでにあるコレクションとの関係を考慮し、当館ならではの視点で「今という時代」を語ることのできる作品を集めています。



左：吉澤美香《は-9》1990年 ABSインク、ABS樹脂 201.5×202.0 cm 北田治氏寄贈
右：吉澤美香《は-10》1990年 ABSインク、ABS樹脂 201.5×198.5 cm 北田治氏寄贈

展覧会 [有料]

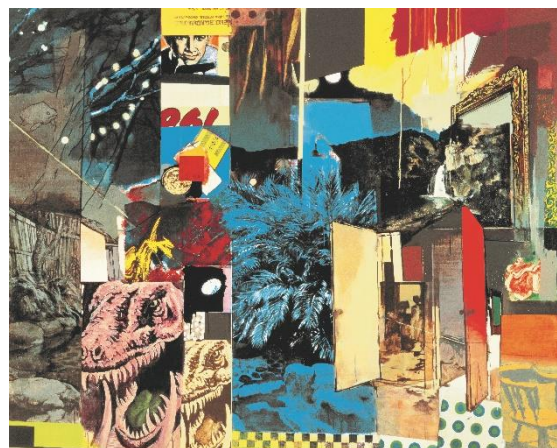


コレクション展

新収蔵作品特別展示——浅井裕介 《八百万の森へ》 新たにむかえた作品たち——生活・手仕事・身体

出品作家

浅井裕介、石原友明、岩崎貴宏、スプツニ子！、辰野登恵子、椿昇、
ヘルナン・バス、クリス・ヒュン・シンカン、平林薫、福田美蘭、松井智恵、森村泰昌、吉澤美香
*50音順



左上：岩崎貴宏 《アウト・オブ・ディスオーダー（海洋モデル）》
2017年 ビニールシート、使い捨て弁当箱、ストロー、輪ゴム、
ペットボトル、テーブル 88.5×250×100 cm 個人蔵（寄託）
第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示
撮影：木奥恵三 ©Takahiro Iwasaki 提供：国際交流基金

右上：ヘルナン・バス 《彼のものは花に擬態する唯一の種として知られる》
2017年 アクリル絵具、エナメル、麻布 152.4×121.9 cm 寄託
Photo by Kei Okano. Courtesy of the artist and Perrotin

左下：福田美蘭 《水曜日》
1988年 アクリル絵具、合板に貼付した綿布、紙 181.8×227.2 cm

関連イベント

ギャラリートーク

さまざまな切り口で、学芸員やエドゥケーターが作品の見どころや楽しみ方を紹介します。

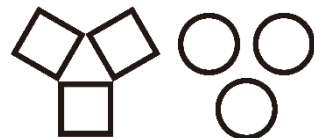
- 日時 ①2025年4月11日（金）14：00～14：30
②2025年4月19日（土）11：00～12：00（英語通訳付き）
③2025年5月2日（金）14：00～14：30
④2025年5月10日（土）11：00～12：00（手話通訳付き）

会場 コレクション展3F展示室

参加費 無料（申込不要、当日有効の観覧券が必要）

横浜美術館

展覧会 [有料]



開館情報と観覧料

横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」

コレクション展

新収蔵作品特別展示—— 浅井裕介《八百万の森へ》

新たにむかえた作品たち—— 生活・手仕事・身体

開館情報

会期 2025年2月8日（土）～6月2日（月）

開館時間 10時～18時（入館は閉館の30分前まで）

休館日 木曜日（ただし3月20日〔木・祝〕は開館）、3月21日（金）

観覧料

横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」

コレクション展も入場できます（「おかえり、ヨコハマ」の観覧当日に限り）

一般 1,800 (1,700) 円

大学生 1,500 (1,400) 円

高校・中学生 900 (800) 円

小学生以下 無料

「コレクション展」のみの鑑賞

一般 500 (400) 円

大学生 300 (240) 円

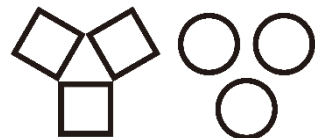
高校・中学生 100 (80) 円 *毎週土曜日は、高校・中学生は無料

小学生以下 無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金（要事前予約、美術館券売所でのみ販売）

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1名）は無料

無料で鑑賞できる展覧会、作品



コレクション展

「ひっくり返す・ひっくり返る」

上下左右を逆転したり、白黒を入れ替えたり、巨大なものを極小に、カチコチのものをゆるふわに・・・してしまったら？ 頭のなかひっくり返って、身の回りのできごとまったく違って見えてくるかもしれません。

自分とは異なる考えかた、自分では知らなかったことが、世界には満ちあふれている！という発見、そこから広がる新しい世界観——美術館体験の原点ともいえる驚きや喜びへ

の誘いとして、なにかをちょっぴり“ひっくり返した”作品たちをご紹介します。

「ガラスとひかり」

大規模改修で新設したガラス張りの展示室。陽の光が射しこみ、外の景色も見わたせる、開放的な空間に、ガラスのコレクションを並べてみました。

自然光を透かした作品の見映えは、横浜美術館の学芸員でさえ、思わず「おお！」と声をあげてしまうほど。朝に、夕べに、展示室の中から、外から、と、ガラスたちはさまざまに表情を変えていくことでしょう。

散歩や買い物のついでにふと立ち寄ってみようかなと思いだす、そんなスポットになれたら嬉しいです。



クリスチャン・ヤンコフスキー
《彫刻ヘッド・マッサージ》（「マッサージ・マスターズ」より）
2017年 インクジェット・プリント 101.5 x 152.5 cm
© Christian Jankowski, *Massage Masters*, 2017



「ガラスとひかり」展示風景（ギャラリー9）

撮影：新津保建秀

基本情報

会期 2024年11月1日（金）－2025年6月2日（月）
会場 ギャラリー8、ギャラリー9（じゅうエリア）
開館時間 10時～18時（入館は閉館の30分前まで）
休館日 木曜日（ただし3月20日〔木・祝〕は開館）、3月21日（金）
観覧料 無料

展示室以外の「じゅうエリア」で鑑賞できる作品

グランドギャラリーの大階段、3階展示室前の無料エリアにも多数の彫刻や陶磁器のコレクションを展示しています。

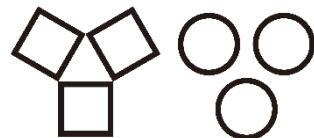
ご覧いただける期間、開館時間等は上記に同じです。

* 展示作品のリストは、別添「出品リスト」をご確認ください。



撮影：新津保建秀

無料で鑑賞できる展覧会、作品



横浜美術館リニューアルオープン記念 オンライン作品 SIDE CORE × 横浜美術館「KAIROS/カイロス」

企画趣旨

1989年の開館以来はじめてとなる約3年にわたる大規模改修を経て、生まれ変わった横浜美術館。この大きな節目に変化した建物を記憶にとどめるため、アーティスト・コレクティブSIDE COREとともに360度カメラで撮影してきました。その映像作品を全館オープンの機会に、オンライン公開します。

ギリシャ語で「時」を意味する「KAIROS」（カイロス/ギリシャ神話の男神）と題されたこの映像には、改修前後の内部空間や、美術館の引っ越しの様子など、工事団いに閉ざされ、眠る美術館の舞台裏が記録されています。SIDE COREは、覆い隠される建物の中に、多国籍なアーティスト集団TOKYO ZOMBIEやミュージシャンのコムアイ、アーティストの森山泰地、菊地良太らを招き入れました。3年間にわたり変わりゆく建築とたわむれ、そこへの介入をこころみる彼らは、改修の経過に伴いそれぞれのライフステージでも変化を経験しました。彼らは、休館中に流れた時の移ろいを知らせる導き手として登場します。

***公開は2月8日（土）10:00です。**

***この作品はオンラインのみでご覧いただけます。館内では展示していません。**

みどころ

1. SIDE COREによる3年越しの新作映像、初公開！
2. 美術館建物のbefore/afterだけではない時間の経過が、パフォーマーの介入によって体感できます。
3. いつでも、どこでも鑑賞可能。

視聴URL

日本語サイト

https://yokohama.art.museum/exhibition/202502_kairos/

英語サイト

https://yokohama.art.museum/eng/exhibition/202502_kairos/

基本情報

公開期間 2025年2月8日（土）10:00 – 2026年3月31日（火）23:59

主催 横浜美術館

監督・演出 SIDE CORE

出演 EVERYDAY HOLIDAY SQUAD

菊地良太

コムアイ

TOKYO ZOMBIE

森山泰地

（五十音順）

撮影・編集

SIDE CORE

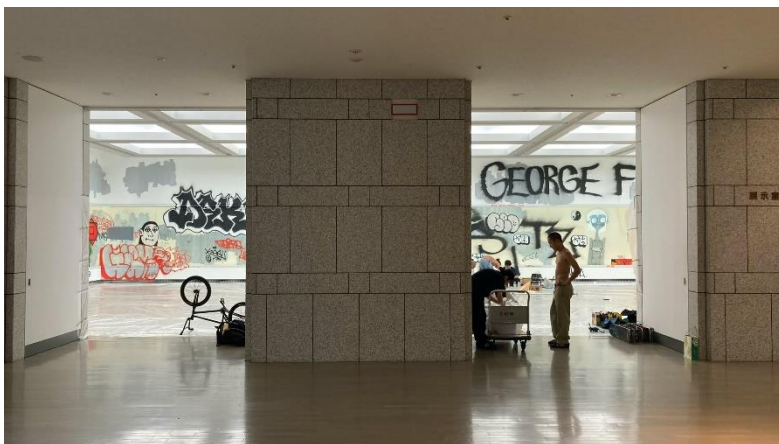
ACTUAL Inc.

システム構築

HAUS (monosus, inc.)

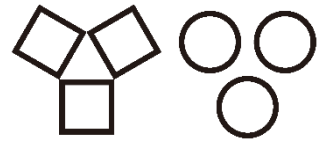
システム提供

WHERENESS by ACTUAL Inc.



《KAIROS/カイロス》より、2021-2025年、ビデオ

横浜美術館



横浜美術館リニューアルオープン記念 オンライン作品 SIDE CORE × 横浜美術館「KAIROS/カイロス」

アーティスト紹介

SIDE CORE (サイド コア)

2012年より活動を開始、東京都を拠点に活動。

メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。映像ディレクターは播本和宜。

個人がいかに都市や公共空間のなかでメッセージを発するかという問いのもと、ストリートカルチャーの思想や歴史などを参照し制作する。ときに他ジャンルの表現者を交えたプロジェクトとして、都市の死角や隙間となる場所で多彩な作品を展開。近年では、個展「SIDE CORE展 | コンクリート・プラネット」(ワタリウム美術館+屋外、2024)開催、第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」(横浜美術館ほか、2024)参加。

アーティスト・ステートメント

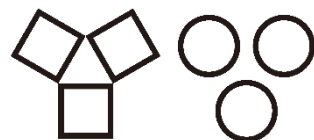
このプロジェクトに関しては、何となく計画した通りに進んできたような気もしますが、過去から現在が組み立てられてきた構築的な感覚はなく、曖昧になってしまった現在と過去の繋がりを何とか結びつけている感覚があります。特にこの3年における過去と現在の繋がりがぼんやりして感じるのは個人的事情もあると思いますが、実際にあまりに激動の時代でした。侵略戦争が世界各地で勃発し、コロナ禍があっけなく忘却され、世界に対する不安と疑念は深まるばかりです。そんな状況だからなのでしょう、アーティスト達の人間的な変化は大きく、3年前と別人だとすら感じてしまいます。

今回のプロジェクトは360度カメラで、横浜美術館内部でアーティスト達のパフォーマンスを撮影した内容ですが、あえて過去と現在の映像を混在させて編集することで、現在の視点から薄くぼやけた3年前の美術館、アーティスト達の姿を再発見します。その瞬間が過去なのか現在なのかわからない状況を、360度カメラの幽体離脱した視点で追いかけてながら、美術館という空間を通してのみ可能な時間体験を、バーチャルリアリティ表現によって探ります。

SIDE CORE



《KAIROS/カイロス》より、2021-2025年、ビデオ



横浜美術館リニューアルオープン記念 トーク&ワークショップ「新宮晋の世界」(有料)

横浜美術館が所蔵する《風の音符》や、「みなとみらい21彫刻展ヨコハマビエンナーレ'86」大賞受賞作品《白い花》など、風や水をとらえた動く彫刻を各地に制作してきた彫刻家 新宮晋（しんぐう・すすむ）氏をお迎えし、宇宙、地球、大自然をテーマにした活動についてお話を伺います。また、《オーロラⅢ》《オーロラⅣ》の構造を参考に、家に飾れるサイズの微風で動く、小さなオーロラ作品の制作を体験します。

日程 2025年3月8日(土) [全1回] 時間 13:30~16:00

講師 新宮 晋(風の彫刻家)

作品解説 中村尚明(当館主任学芸員)

会場 横浜美術館 子どものアトリエ、ポルティコ

対象 12歳以上 定員 30名程度(1組2名までお申し込みいただけます) ※応募者多数の場合は抽選

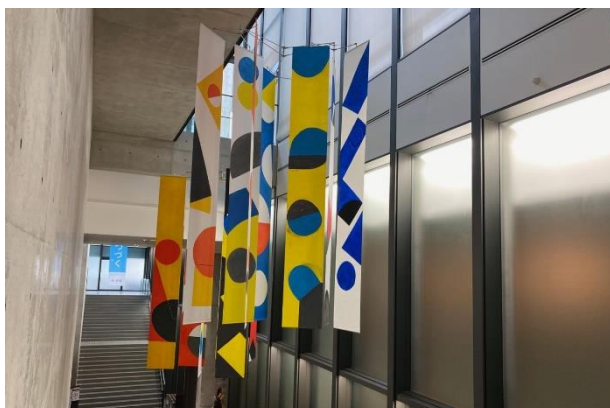
参加費 ひとり 4,000円(材料費込) ※要事前振込

申込締切日 2025年2月17日(月)

詳細・申込URL https://yokohama.art.museum/event/20250308_shiato_shingu/



新宮 晋 《風の音符》 1989年 横浜美術館蔵



新宮 晋 《オーロラⅢ》、《オーロラⅣ》 2018年 兵庫県立美術館蔵

展覧会関連イベント(ギャラリートークや講演会)

横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」関連イベント 10ページ
コレクション展 ギャラリートーク 12ページ をご覧ください。

デジタルガイドアプリ

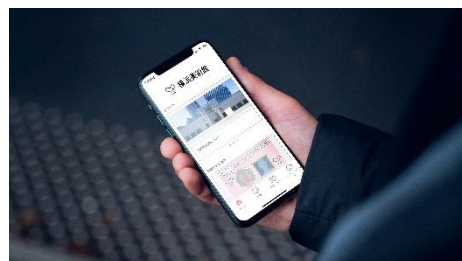
Bloomberg Connects (ブルームバーグ・コネクト)

無料のアート&カルチャーアプリ「Bloomberg Connects (ブルームバーグ・コネクト)」に、横浜美術館のガイドが登場しました。2024年11月に実施した横浜美術館の丹下健三建築や、新設した2つのギャラリー、美術図書室、カフェ、アトリエなどを紹介したツアーの内容を音声とテキストで楽しめます。

アプリはこちらからダウンロードできます。

<https://links.bloombergconnects.org/6Ggw/whftxh0v>

または同封のハガキのQRコードからアクセスしてください。



今後は、コレクションの紹介を展開する予定です。公開日など詳細は、横浜美術館ウェブサイトでご案内します。

美術館がたのしくなるプログラム



子どもや家族が楽しめるしかけ

子どもや初めて美術館に来た方、美術館は窮屈だと感じている方も楽しめるしかけを用意しました。

美術館では、教育普及に携わる担当者をはじめスタッフが右のバッジをつけて来館者を迎えます。

バッジを付けたスタッフは、子どもたちからミッションクリアした報告を受けたり、作品の感想を聞くなど子どもたちと積極的な交流をはかります。来館者とスタッフとのコミュニケーションの機会を増やしていく、横浜美術館の新しい試みです。



こどもミッションシート

5つのミッションをクリアすることで美術館でのマナーや作品の楽しみ方をわかりやすく紹介するシートです。

ミッションが完了したら、バッジをつけたスタッフに声をかけます。ミッションをクリアできた喜びや作品を見た感想を分かち合います。



ビビッと！びじゅつ探検カード

表面に作品や建築の部分の切りとった図が掲載され、裏面にはその作品に関する短い問いかけが書かれています。来館者は好きなカードを選び、どこにその作品があるかを探しながら館内をめぐります。(カードは12種類あります。)

「作品を探す」ことを通して、切り取られた部分をじっくり観察したり、子どもだけでなく家族や一緒にいる人との対話のきっかけを作ることが狙いです。

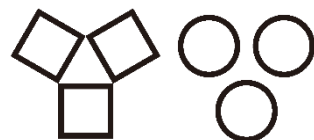


子どもの目でみるコーナー

「おかえり、ヨコハマ」展の第8章「いよいよ、みなとが、ひらく」展示室に、大人も子どももゆっくりと作品に向き合えるコーナーをつくりました。

*コーナーの公開は開幕時となるため、画像は横浜美術館広報担当までお問い合わせください。

限定販売



横浜美術館パスポート 2025

2月8日（土）の全館オープンに合わせて、横浜美術館リニューアルオープン記念展とコレクション展の観覧にお得な「横浜美術館パスポート2025」を販売いたします。当館コレクションのマグリットの《王様の美術館》をあしらったデザインの名刺サイズです。

大変お得な本パスポートは販売期間限定・横浜美術館券売所販売のみとなりますので、ぜひお早めにお求めください。

1,000枚限り、期間限定販売ですので、ぜひお早めに券売所でお求めください。

パスポートで観覧できる展覧会

● 記念展シリーズは3回までご観覧いただけます。

おかえり、ヨコハマ 会期：2025年2月8日（土）－6月2日（月）

佐藤雅彦展 新しい×（作り方+分かり方）

会期：6月28日（土）－11月3日（月・祝）

日韓現代美術展（仮称）会期：12月6日（土）－2026年3月22日（日）

● コレクション展は何度でも観覧できます。



※記念展シリーズの3回の組み合わせは自由です。

たとえば、同じ展覧会を3回観覧、または上記3本の展覧会を1回ずつ観覧可能です

※ 休館日：木曜日（ただし2025年3月20日（木・祝）は開館）、3月21日（金）、年末年始

※ 各記念展の詳細については横浜美術館ウェブサイトですべて更新してまいります。

概要

販売期間 2025年2月8日（土）－6月2日（月）（「おかえり、ヨコハマ」展会期中）

販売場所 横浜美術館券売所のみ

販売枚数 1,000枚限定

販売価格 4,000円（税込）

パスポート有効期間：購入日～2026年3月22日（日）まで

ご利用の際の注意事項

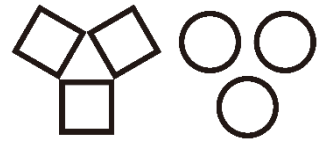
- ・ご利用の際には、パスポートを展覧会入口にてご提示ください。ご提示がない場合はご利用できません。
- ・本人のみ有効です。他人への譲渡・貸与はできません。ご使用の際には、パスポート裏面の署名欄に必ずご署名をお願いします。署名のないものは無効です。
- ・ご入場の際、ご本人確認をさせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・払戻、再発行はできません。紛失等にはご注意ください。

お問い合わせ

横浜美術館 045-221-0300（10:00－18:00、木曜日休館）

横浜美術館

これからの展覧会
横浜美術館リニューアルオープン記念展シリーズ



2025年 6月28日（土）— 11月3日（月・祝）

横浜美術館リニューアルオープン記念展

佐藤雅彦展 新しい×（作り方＋分かり方）

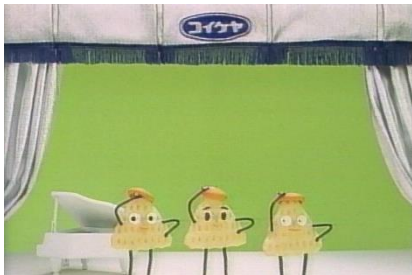
『ピタゴラスイッチ』『だんご3兄弟』『0655/2355』（NHK教育）などの教育番組群、『バザールでござーる（NEC）』『モルツ（サントリー）』『スコーン（湖池屋）』をはじめとするCM群、『計算の庭』『指紋の池』に代表される身体表象をテーマにしたインタラクティブアート群。佐藤雅彦は、表現者そして教育者として、さまざまなメディアを用いて斬新、かつ親しみやすいコンテンツを発表し続け、90年代以降のメディアの世界を牽引しています。

初の回顧展となるこの展覧会では、「作り方が新しければ、おのずとできたものも新しい」を信条とする佐藤の約40年の創作活動を概観し、そこに通底する独創的な思考方法と表現手法、感性を浮き彫りにします。

[主催 横浜美術館／TOPICS]



佐藤雅彦
撮影：岡田卓士



左：CM『ポリンキーの秘密』（湖池屋）1990年
右：《計算の庭》（桐山孝司との共作）
「六本木クロッシング2007」展示風景（森美術館）

2025年 12月6日（土）— 2026年 3月22日（日）

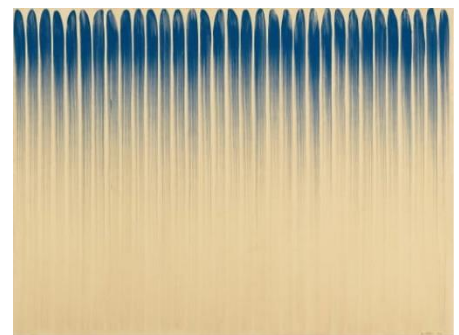
横浜美術館リニューアルオープン記念展

日韓現代美術展（仮称）

地理的にも文化的にも近い他者として、長い歴史を歩んできた日本と韓国。その中でも、1945年以降今日に至るまでの美術は、どのような関係にあったのでしょうか。二国間の接点や断絶、共通点と差異を中心に考えると、たがいの、そして自己の意外な姿が立ち上がってくるかもしれません。

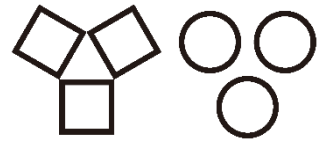
1965年の日韓国交正常化から60年となる節目に合わせ、韓国国立現代美術館との共同企画により、日韓現代美術の関係史を紐解きます。

[主催 横浜美術館／韓国国立現代美術館]



李禹煥《線より》1974年
岩絵具・膠・カンヴァス 194×259cm
韓国国立現代美術館蔵（参考作品）

左：富山妙子《光州のピエタ》1980年
スクリーンプリント 49.8×63.7cm 横浜美術館蔵
右：田中功起《可憐な歴史（ロードムービー）》2018年
映像インスタレーション 作家蔵



横浜美術館【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】
横浜市西区みなとみらい3-4-1 Tel 045-221-0300(代表)
経営管理グループ（広報）
担当グループ長 熊谷 Tel 045-221-0368
広報担当 高橋 Tel 045-221-0319
Email : pr-yma@yaf.or.jp

プレス画像申込
<https://yokohama.art.museum/pressroom/form/>